



洋画
 呉文琦 「測定単位：時間」「記録：青、赤、黄」
 インスタレーション／サイズ可変 撮影：末正真礼生



日本画
 太田美歌 「Land-scape/3.11」
 H1940×W4863mm



版画
 吉松由梨亜 「苦相」
 リトグラフ／H690×W540mm (3点)



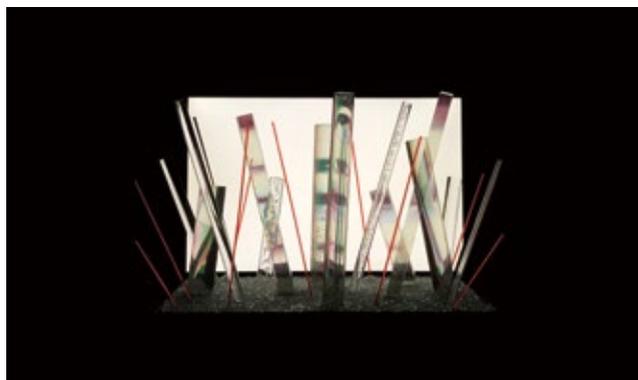
工芸
 赤坂 董 「floating sculpture」
 綿布、シルクスクリーン／H2600×W5600mm



立体芸術
陳 柯佳 「welcome to our world」
樟、鉄 / H2650×W1000×D650mm



ヒーリング
羅 靖雯 「殻の子」
絵本 / 原画サイズ: H300×W400mm(2点)、H250×W300mm(3点)



メディア
夏 子凡 「刺(とげ)」
映像インスタレーション、液晶ディスプレイ、アクリル

作品「刺」は、生まれつき敏感で、周囲からの刺激や他人の感情を過度に受け取ってしまうHSP(Highly Sensitive Person)の感じている世界を、インスタレーションで表現した作品。様々な形態のアクリル棒は背後のディスプレイの白色光(刺激)に影響され、アクリル表面に貼られた偏光フィルムの効果で人の視線が映像として浮かび上がる。他人が意識しない刺激に影響されたり傷ついたりするHSPの心理を造形化した作品である。



ファッションテキスタイル
野々上 澄 「余裕は形態を変え衣服の中に溶け込み、私達にゆとりをもたらす。」
ポリエステル、キルト芯 / H1750×W1200×D1200mm



ZINE『レントゲン芸術研究所の研究』/ デザイン:中村陽道

アートプロデュース

鈴木萌夏 「レントゲン芸術研究所とは何か—資料アーカイヴの実践とその考察— / 研究報告」

本研究は1991年から1995年まで存在した画廊「レントゲン芸術研究所」の過去の資料の分析を通じてその活動を明らかにし、90年代の日本のアートシーンにおける位置付け、役割を検証することを目的としており、2017年から行ってきたリサーチプロジェクト「レントゲン芸術研究所の研究」を継続、発展させたものである。プロジェクトは資料アーカイヴをもとにインタビュー、展覧会、ZINEの3つで構成される。それらの調査に基づき、考察した結果を冊子にまとめ、修了制作展ではプロジェクトの研究報告として、基礎資料、インタビュー映像、年表などのアーカイヴによる展示を行った。



ヴィジュアルデザイン

リ・ニンカ 「Little red riding hood」

グラフィック、紙にデジタル出力、スプレー／

平面作品: H1030×W1456mm (6点)、冊子: H300×W300mm (1点)



プロダクトデザイン

王 傑 「KEI」—日本の伝統的な紋様を活かした珪藻土を用いたプロダクト

珪藻土、石膏など/タオル掛け(壁掛け式): H870×W450×D60mm、

ハンカチ除湿消臭小物(12点): H80×W80×D8mm、

タオル掛け(床置き/組み立て時): H540×W900×D450mm、バスマット: H10×W520×D300mm

私は大学院での二年間で研究した珪藻土の特質と日本の伝統的な紋様を組み合わせることで人々の五感にインパクトを与えるプロダクト(バスマット・タオル掛け・ハンカチ除湿消臭小物)を提案した。「KEI」は珪藻土の優れた消臭性・調湿性を活かした機能面と視覚に訴えかける美しい日本の紋様で心に潤いや安らぎを与える。



環境デザイン

陳 子坤 「学院博物館のリノベーション計画—障害者・高齢者・生活弱者の立場からの提案—」

木材/H400×W420×D594mm(模型1点、プレゼンボード6枚)